

R7年度病院看護師実地研修報告

実地研修を通じた病院と訪問看護ステーションの連携と相互理解

だてクリニック
看護師長 畑 弘和



研修参加前の狙い

- 受け持ち患者への在宅支援や退院後支援の視点を広げる
- 訪問看護ステーションの役割や多職種連携の理解
- 外来透析患者の在宅生活を意識したケア方針の調整方法を学ぶ
- 今後の院内支援やチームでの調整力向上に活かす

クリニック概要①：患者状況

患者の特徴

- 外来透析中心、患者130～140名、平均年齢71.3歳
- 施設入所：約38%（約50名）、残りは在宅生活
- 送迎車利用：約77%（約100名）、うち車椅子使用：約62名

クリニック概要②：院内体制

院内の支援体制

- 入院病床：14床
- 受け持ち看護師が患者全体を把握し、治療・生活支援を統合
- MSWが地域サービス・訪問看護との調整を担当

研修参加で得られた学び

研修参加で得られた学び

- 参加者が訪問看護の現場を体験して院外の生活状況を理解
- 在宅療養者を支える多職種連携の実際を把握
- 「生活者としての患者」を支える視点を身につけた
- 生活環境や家族支援、判断の背景など、注目すると理解が深まるポイントを実際の場面で示していただけると、学びを整理し振り返りやすくなり、実践に活かしやすくなった
- 院内でのケア調整に活かせる視点が広がった

研修成果を院内支援に活かす

研修成果を院内支援に活かす

- 受け持ち看護師が院外での生活状況を理解することの効果
- ケア計画や調整方法の精度向上につながった
- 研修参加者の学びを院内で共有・活用する仕組みが重要
- 継続研修を通して院内支援力向上の基盤となる

研修を通じて見えてきた支援の視点

- 研修で得られた全体視点
- 多職種連携や支援調整の重要性を理解
- 在宅での生活環境・家族状況を考慮したケアの必要性を実感
- 今後の院内支援に活かせる示唆を整理

今後の活かし方

院内での活用方針

- 病院外での生活状況を踏まえたケア計画の検討
- 在宅・施設・病院をつなぐ連携の強化
- 受け持ち看護師の判断力・調整力向上